

小ロットでも儲かる仕組みづくり目指す デジタルコンテンツファクトリーで1人で年商10億円企業の実現へ

所在地：東京都渋谷区
猿楽町19-2
代表者：福田真太郎氏
TEL 03-3462-1181
FAX 03-3462-1185
https://www.shinkousha.co.jp

市場戦略

株式会社真興社は、JDFを導入している優れた企業を表彰する「CIPPIアワード」において、2009年に『プロセス自動化技術を最も革新的に活用した事例部門』および『最優秀プロセス自動化の導入事例ーアジア・パシフィック地域』の2つの賞を受賞するなど、早期から自動化や生産ワークフローの最適化に取り組んできた企業として知られている。コロナ禍以降はオンライン環境を活かした柔軟な働く環境の整備や、顧客先との校正作業の効率化をさらに進化。一昨年はテレワークシステムをハブサーバー化するなど、21世紀型の新しい印刷業の在り方に挑戦している。

現在、同社がさらに進めているのが、「Digital Contents Factory（デジタルコンテンツファクトリー）」への取組みである。その根底にあるのは、「スマートファクトリー化」であり、センサや設備を含めた工場内のあらゆる機器をインターネッ

トに接続（IoT）し、品質などの様々な情報を「見える化」し、情報間の「因果関係の明確化」を実現させ、設備同士（M2M）や設備と人が協調して動作する（Cyber-Physical System）ことで実現させる、を目指している。

サイバーフィジカルシステムを実現させるためにも、これまで属人化していた作業の見える化やフローの再構築を行い、タッチポイントを減らすCIM化（コンピュータ統合生産）を実現。かつて「見積～受注～製品仕様～プリプレス工程～面付～校了（責了）～製版～インキ量調整～印刷予定決定～刷版選別～印刷・刷了製品～検品～品質管理～納品～請求」まで15あったタッチポイント（実業務）が、今では「積算見積～受注～工程管理～印刷・仕上げ工程～納品・請求」の5つのタッチポイントにまで削減されている。

それでも福田社長は、「今後10年間で従

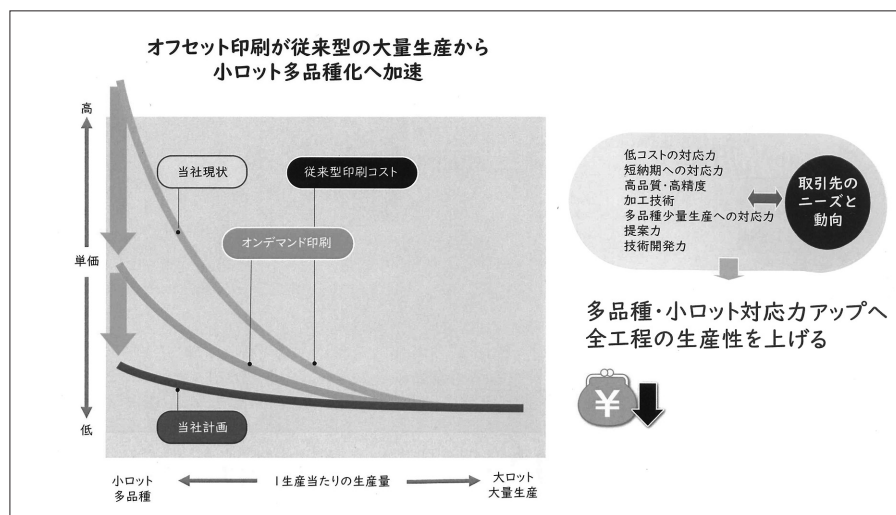
来の仕事は半減している可能性もある」と厳しく現状を分析。同社が主に取り組んでいる医療系の書籍市場も、大量生産から小ロット多品種へと変わっている。そのことから市場が半減しても、小ロットでも利益を生む体制を構築する必要があると語る。

小ロットでも儲かる仕組みをつくるためにも、全工程を自動化の対象と捉えることが必要だ。全てのプロセスチェーンに目を向けることで、トータルコストによる競争力を高めることができからであり、そのためにもデジタルコンテンツファクトリー（DCF）を進めている。

DCFの基本的な考え方として、様々な方法で取得したデータを読み取り、処理され、様々な方法で転送しアウトプットしていく。現在同社では、ワークフローシステムEQUIOS Onlineを基軸に、基幹業務システムPrintSapiensとの組み合わせで営業担当者が入力した見積もりデータがMISに登録され、そのデータを元に仕様が決定し、最適な生産工程に自動処理されるというフローが構築されている。

なお、DCFにおいては、オンデマンド印刷の強みを生かしたワークフローも活かしている。これにより書籍の在庫が不要となり、返品もなくなるなどトータルコストの削減に寄与している。

これまでも、『一人で年商10億円の印刷会社経営を可能にする』を目標に取り組んできたが、「実現可能であることが見えてきたという感じです」と福田社長は期待を語っている。



小ロットでも儲かる仕組みが必要に